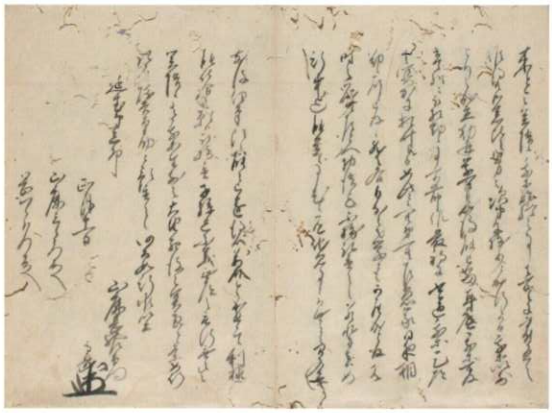
平成28年度特別展

山鹿素行

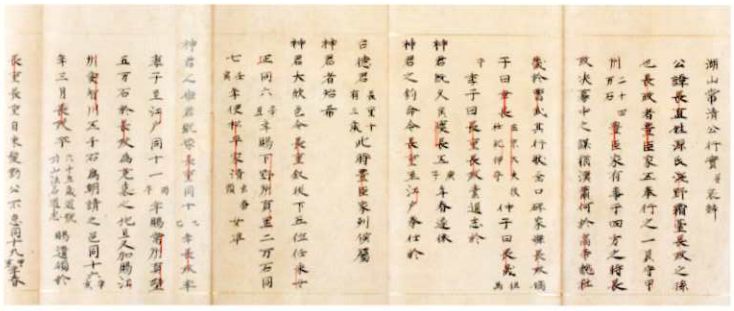
江戸時代前期を代表する兵学者で思想家の山鹿素行は赤穂浅野藩初代藩主長直に兵法師範として承応元年（1652）から約８年間、一千石で召し抱えられていました。赤穂藩を辞した後、出版した著書『聖教要録』が幕府が公の学問とした朱子学を批判する内容であるという罪で寛文６年（1666）に赤穂に配流となり、赦されるまでの約９年間を赤穂の謫居で過ごしました。この間執筆活動に専念し『中朝事実』など思想の到達点となる書を著しています。浅野三代藩主（長直・長友・長矩）及び長矩の弟長広のほか大石氏など複数の藩士は素行の弟子でもあり、赦免後素行が江戸に帰ってからも交流が続きました。本年は素行が赤穂に配流になって350年にあたります。本展ではこれに因んで直筆の著書や手紙・兵学関係資料を収集・展示し、赤穂との関わりや山鹿流兵学などについて紹介します。

大哉具足（長崎県指定文化財）　松浦史料博物館蔵



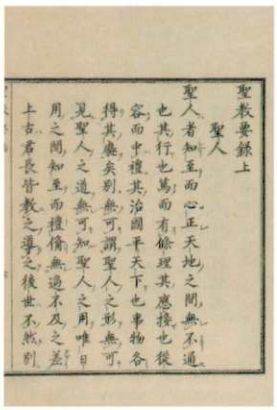
『配所残筆』　山鹿素行著・自筆
個人蔵（国文学研究資料館寄託）

山鹿流押太鼓　松浦史料博物館蔵



湖山常清公行実并哀辞（部分）　山鹿素行筆　たつの市立龍野歴史文化資料館蔵

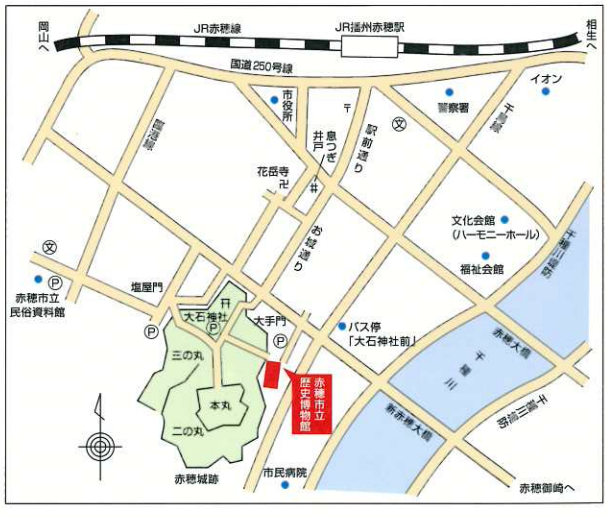
山鹿流備立図　松浦史料博物館蔵



『聖教要録』
山鹿素行著
国文学研究資料館蔵

電車の場合

お車の場合



交通のご案内

◆JR 播州赤穂駅より南へ徒歩約 15 分◆JR 相生駅より車約 25 分◆山陽自動車道赤穂インターより車約 10 分◆車でお越しの方は、当館北隣の赤穂城跡駐車場（無料）のご利用が便利です◆12 月 14 日は赤穂義士祭のため、市街地は車での通行が規制されます。当日は車でのご来館はお控えください。